

研究発表会開催通知

(昭和 59 年 12 月 15 日～昭和 60 年 1 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
情 報 シ ス テ ム	12月18日 (火)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	前号参照
マイク ロ コンピュータ	12月18日 (火)	15 : 00～17 : 00	同 上	同 上
知 識 工 学 と 人 工 知 能	1 月18日 (金)	9 : 30～17 : 00	京 大	下記参照
計 算 機 アーキテクチャ	1 月18日 (金)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
データベース・システム	1 月22日 (火)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
コンピュータビジョン	1 月24日 (木)	10 : 00～17 : 00	京 大	同 上
自 然 言 語 処 理	1 月24日 (木) 1 月25日 (金)	13 : 00～17 : 00 10 : 00～16 : 00	京都教育文化 センター	同 上

◆ 第 38 回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数 : 8 件)

(主査 : 志村正道, 幹事 : 石塚 満)

日 時 昭和60年 1 月18日 (金) 午前 9 時半～午後 5 時

会 場 京都大学工学部 情報工学科 1 階第一講義室

〔京都市左京区吉田本町, 国鉄 : 京都駅下車, 市バス : 17 番 (錦林車庫) 百万遍下車, 地下鉄 : 北大路行にて今出川下車, バス : 烏丸今出川バス停より市バス : 203・201 番にて百万遍下車, Tel. 075 (751) 2111〕

議 題 (1) 音声理解システムにおける語彙解析部の設計

河内雅亮, 溝口理一郎, 山口高平, 角所 収 (阪大・産研)

〔概要〕 現在開発中の音声理解システムの語彙解析部における単語や主題に関する知識を用いた処理について述べる。

(2) 帰納推論に基づく知的 CAI システム

願化真志, 溝口理一郎, 豊田順一, 河合和久

喜納久行, 角所 収 (阪大・産研)

〔概要〕 帰納推論を核とする知的 CAI システムの概要を述べる。本システムは PROLOG プログラミングの教育を目指したものである。

(3) ホーン節による否定の表現と開世界推論

西原典孝, 森田憲一 (阪大・基礎工)

〔概要〕 否定記号を述語の引数とすることにより, ホーン節で否定の表現と開世界推論を行う方法について論じた。

(4) 知的対話機能のエキスパートシステムによる実現

中村 孝, 小川 均, 田村進一 (阪大・基礎工)

〔概要〕 知的マンマシンインタフェースをめざした対話機能を対象とするエキスパートシステムを提案する。

(5) オブジェクト指向型表現を用いた物理問題解決システム

安西祐一郎, 近藤公久, 中村久肇, 浦 昭二 (慶大・理工)

〔概要〕 初等力学の問題をオブジェクト指向型の表現形式によって表現し, それを定性的に理解した上で解くシステムを紹介する。

(6) LSI の動作記述からの知識獲得について

西田豊明, 川村 正, 堂下修司 (京大・工)

〔概要〕 LSI のマニュアルから得られた動作記述およびタイムチャートを解析し, 形式的な仕様記述を生成するシステムを作成した。

(7) 話題管理機能を持つ対話システムの試作

宮地泰造, 古川康一 (ICOT), 伊草ひとみ, 近藤省造, 太細 孝 (三菱電機)

〔概要〕 知識ベース管理システムのデータベースと人間との対話システムにおける, 話題管理および対話管理の機能について報告する。

(8) KPV 法に基づく前打着時評価の再利用

田島守彦 (電総研)

〔概要〕 知識指向型ゲームプログラム OTL. PLG は KPV 法と名づけた新手法によった。本手法によれば, 前打着時の評価が高率で再利用できる。

*研究会終了後関連研究室の見学を行います。

◆ 第 48 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 3 件)

(主査: 飯塚 肇, 幹事: 坂村 健, 大島一純)

日 時 昭和 60 年 1 月 18 日 (金) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷ー東京タワー線東京タワー, 等々力ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕

議 題 (1) Loop Structured Computer について 熊沢忠志, 吉岡良雄 (岩手大・工)

〔概要〕 蓄積型ループ状バスに, 制御・メモリ部と複数の PE を接続した Loop Structured Computer の構想, 試作機による検討について述べる。

(2) 拡張性のある高速 FFT 用 VLSI 基本モジュールチップの構成

李 顯洙 (慶大・理工)

〔概要〕 本論文では, バタフライ演算モジュールに基づく拡張性のある高速 FFT の VLSI アルゴリズムを提案する。

(3) V 20/V 30 アーキテクチャと i-TRON インプリメンテーション

門田 浩 (日電)

〔概要〕 CPU アーキテクチャが OS インプリメンテーションに与える影響をパフォーマンスの観点から考察する。CPU として日本電気のオリジナルマイクロプロセッサ V 20/V 30 を, OS として i-TRON を例にとり, 評価結果を交えて議論する。

◆ 第 45 回 データベース・システム研究会

(発表件数: 3 件)

(主査: 酒井博敬, 幹事: 有澤 博, 三浦孝夫, 吉田郁三)

日 時 昭和 60 年 1 月 22 日 (火) 午後 1 時半～5 時

- 会 場** 機械振興会館 地下3階2号室(所在地は前記参照)
- 議 題** (1) PMS コンセプト・モデルと状態構造変化を考慮したデータベース
加藤哲夫(神戸ソフトウェア)
- [概要] PMS コンセプト・モデルの位置づけを明確にし、状態構造変化を考慮したデータベースの PMS への適用を検討する。
- (2) データベース設計システム DBDESIGN
中野勝之, 池田幸雄, 山多 昭, 馬場正和(横須賀通研)
- [概要] CODASYL 型データベースの概念, 論理, 物理設計工程の各支援機能とその実現法について報告する。
- (3) 階層型データベース再構成に伴うデータ転送プログラムの自動コーディング
磯本征雄, 溝口理一郎, 角所 収, 竹内 憲, 石桁正士(名古屋市大)
- [概要] データベース再構成に伴う新旧ファイル間データ転送プログラムの自動コーディングを PROLOG で試みる。

◆ 第34回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 9 件)

(主査: 辻 三郎, 幹事: 木戸出正継, 杉原厚吉)

- 日 時** 昭和60年1月24日(木) 午前10時~午後5時
- 会 場** 京都大学工学部 電気総合館3階 中会議室
〔京都市左京区吉田本町, 国鉄: 京都駅下車, 市バス: 206 番(東大路経由) 百万遍下車, Tel. 075 (751) 2111 ex. 5346〕
- 議 題** (1) 論理プログラミングに基づくタイミングチャートの理解
山田純夫, 河合和久, 豊田順一(阪大・産研)
- [概要] 画像から得られる多種多様な情報を知識化し, 論理プログラミングを用いることにより, 論理回路のタイミングチャートの理解を行う。
- (2) ステレオのオクルージョン問題のカメラ移動による解決
徐 剛, 浅田 稔, 辻 三郎(阪大・基礎工)
- [概要] カメラ間の距離とオクルージョンとの関係を利用したステレオ画像の解析法について報告する。
- (3) 多面体識別の並行処理
田中弘美, 辻 三郎(阪大・基礎工)
- Dana H. Ballard, Matthew Curtiss (Rochester 大)
- [概要] 一般化されたハフ変換を利用して, 距離情報を基に複数物体を含むシーン内の多面体識別の並行処理法について述べる。
- (4) 縞状パターンステレオによる3次元位置検出
越後富夫(日本 IBM), 谷内田正彦(阪大・基礎工)
- [概要] 入力カメラの6自由度を画像から求め, ステレオ法の利用による, 縞状パターンを投影したシーンの位置検出について報告する。
- (5) 移動物体像の抽出技術
川端 敦, 谷藤真也, 諸岡泰男(日立)
- [概要] 時々刻々入力される動画像から, ゆっくりと変化する部分を切り出して, それを記憶し, その情報を用いて移動物体像を抽出する技術に関して

述べる。

- (6) 連想記憶モデルによる画像検索 谷 正之, 谷藤真也 (日立)
〔概要〕 部分情報から全体を想起する脳の連想記憶モデルを用いて画像の記憶と想起を行うシステムについて述べる。
- (7) カラー画像の計測と表示における理論的制約条件 富永昌治 (大阪電通大・工)
〔概要〕 正確な色の計測と再現問題について, Horn のベクトル空間論を紹介し, これの拡張と適用を述べる。
- (8) サーベイ: 線図形認識技術の EA, OA への応用 岡崎彰夫, 恒川 尚 (東芝総研)
〔概要〕 最近, 開発および実用化が進められている種々の図面処理装置に用いられている線図形認識技術の整理を試みる。
- (9) 第7回パターン認識国際会議の報告 石塚 満 (東大), 木村文隆 (三重大), 田村進一 (阪大)
松山隆司 (京大), 吉田雄二 (名大)
〔概要〕 1984年7月30日から4日間カナダのモントリオールで開催された標記会議について, その状況と内容の概要を報告する。
(※研究会終了後, 懇親会を行いますのでふるってご参加下さい。)

◆ 第47回 自然言語処理研究会

(発表件数: 11件)

(主査: 吉田 将, 幹事: 榊 博史, 野村浩郷, 日高 達)

- 日 時 昭和60年1月24日(木) 午後1時~5時
1月25日(金) 午前10時~午後4時
- 会 場 京都教育文化センター 2階2号室
〔京都市左京区聖護院川原4, 京都駅から市バス260系統で熊野神社下車, 一筋北へ上り西に入る。徒歩5分, Tel. 075 (771) 4221〕
- 議 題 1月24日(木) 午後1時~5時
- (1) 句構造文法の特性化と構文解析 日高 達, 中村貞吾, 吉田 将 (九大・工)
〔概要〕 句構造文法をブラケット文法と呼ぶ一種の文脈自由文法で特性化し, これを用いた句構造文法の構文解析法を提案する。
- (2) 文法的逸脱を考慮した柔軟な構文解析 井上哲也, 上原邦昭, 豊田順一 (阪大・産研)
〔概要〕 DCGの枠組で, 文法的制約条件を逸脱した表現や, 接続詞句を含む入力文を柔軟に解析する手法について述べる。
- (3) 日本語省略文理解のための手法とその実現法 堂坂浩二, 唐沢 博, 小川 均, 田村進一 (阪大・基礎工)
〔概要〕 省略表現された日本語文理解のための構文・意味・文脈知識を総合的に用いた手法とその実現法について述べる。
- (4) 日本語文意味構造の分析一名詞句構造を中心に一 島津 明, 内藤昭三, 野村浩郷 (武蔵野通研)

〔概要〕 科学技術解説文等を対象に、名詞一名詞の関係など、主として名詞句が表わす意味構造について述べる。

(5) 自然言語理解システム ELLE における動詞の意味表現について

安原 宏, 小松英一, 北 研二, 山本由紀雄, 加藤安彦 (沖電気)

〔概要〕 動詞の意味を状況変化として捉える方法を提案し、意味解析での適用法についての概略を示す。

1月25日(金) 午前10時～午後4時

(6) Towards Hardware Realization of Natural-Language Processors Mohammad Ali Sanamrad

〔概要〕 This paper presents an attempt to develop a natural-language processor based on the binary coding and processing of syntactic features. Using binary operations rather than high-level programming languages would allow for both the hardware realization of such a processor with the available LSI technology, as well as microcomputer implementation.

(7) 漢字の出現頻度情報を用いた日本語文献の自動分類

細野公男, 後藤智範, 守屋 智, 原田隆史, 諸橋正幸
梅田茂樹 (日本 IBM)

〔概要〕 日本語の科学技術文献ファイル中の文献タイトル中に含まれる漢字の出現傾向を統計的に解析した。その結果を利用する分類手法を提案し、分類実験により、モデルの再現精度について検討を加えた。

(8) 自然言語による内容検索に向けて 杉山健司 (富士通研)

〔概要〕 SRI におけるテキストへの自然言語アクセスに関する研究を紹介すると共に、その研究で重要となる内容検索についての研究成果を報告する。

(9) Mu プロジェクトにおける翻訳実験支援環境

片桐恭弘 (武蔵野通研), 中村順一, 辻井潤一, 長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 機械翻訳の質を系統的に向上して行くために必要となる、辞書および翻訳の中間結果を管理する tool 等のソフトウェア環境について報告する。

(10) 日英翻訳過程での処理とその翻訳結果への反映

辻井潤一, 長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 解析・変換・生成での各処理が翻訳結果にどのように現われるかを実例を示して報告する。

(11) Mu プロジェクトにおける日英翻訳結果の評価

長尾 真, 辻井潤一 (京大・工)

〔概要〕 日英翻訳システムの翻訳出力を、人間の翻訳家および英語の native speaker によって評価したのでその結果を報告する。

情報処理学会機関誌に掲載された論文等の著作権について

情報処理学会機関誌に掲載された論文等（以下論文等という）の著作権は、従来明文化されてはおりませんでした。著作権法に基づいて著者に帰属し、本会はこれら論文等の出版権を有するとしておりました。

最近、国内外での科学技術情報の交流の拡大に伴い、情報処理学会機関誌に掲載される論文あるいは解説記事等に対して、複製（印刷・複写・録音・録画等）あるいは翻訳出版の許諾を求める要請が増加し、本会としても、一定の基準のもとで、これらの要望に応じることが望ましいと判断されるに至りました。

そこで、これらの問題に本会として対処するために、著作権を従来どおり著者に帰属させるか、あるいは学会に移転帰属させるかの問題を、編集理事会を中心として、鋭意調査検討してまいりました。その結果、著者に不利益が生じることのないよう十分な配慮を払ったうえで、本会のすべての出版物について、原則として学会に著作権を移転帰属することが望ましいという結論に達し、理事会で承認されました。これに伴い、具体的な措置として、差し当たり次の方針に従って本会の諸規程を改訂することと致します。

（１） 著作権の帰属

- （a） 論文等の著作権は、昭和 60 年 1 月号から、原則として情報処理学会に帰属するものとする。
- （b） 特別な事情によって前項の原則が適用できない場合は、著者と本会との間で協議の上、措置するものとする。

なお、特別な事情とは、次のような例を想定している。

- 依頼論文などその内容が著者個人ではなく著者の属する機関等に係るもので、著作権の本会への帰属に関し、所属機関等の了解が得られない場合。
- 特別講演記事などで、著者の同意が得られない場合。

（２） 著作権の本会への移転帰属による運用効果および運用上の措置等

- （a） 論文等の著作権は本会に帰属するが、著作権者人格権は著者に帰属する。著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し、本会はこれに異議申立て、もしくは妨げることをしない。但し、この場合著者は本会に申し出を行い、また利用された複製物あるいは著作物中に出典を明記するものとする。
- （b） 本会は複製物形式の出版をおこなうことができる。但し、この場合、関係する著者にその旨の了解を得るものとする。
- （c） 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合、本会は、理事会において検討し適当と認めたものについて、要望に応じることがある。但し、この場合、関係する著者にその旨の了解を得るものとする。
- （d） 前記の措置によって、第三者から本会に対価の支払いがあった場合には、関係の著者に報告のうえ、本会会計に繰り入れ、学会活動に有効に活用するものとする。

言うまでもなく、これらの措置は、学術情報交流の活性化に、本会が有効に対処するために行うものです。したがって、会員各位が利益を得られることはあっても、従前に比して不利益を被ることのないよう運営いたします。今回の諸規程改正が会員各位のご協力によって円滑に実施されるようお願いする次第であります。

昭和 59 年 12 月号以前に掲載された論文等の著作権について

本会では昭和 60 年 1 月号以降に掲載される論文等の著作権を本会に移転帰属させる措置をとることになりました。さらに昭和 59 年 12 月号以前に掲載された論文等については、寄稿の時点でこの措置が明文化されておりませんでした。改正の趣旨にかんがみ、これらの論文等につきましても、改正後の規程を準用することが望ましいと判断されます。

つきましては、昭和 59 年 12 月号以前に掲載された論文等についても、必要が生じた場合には、今回の改正に準じた取り扱いをお認め戴くよう会員各位のご了承をお願いする次第であります。また、この措置によって、第三者から本会に対価の支払いがあった場合には、関係の著者に報告のうえ、本会会計に繰り入れ、学会活動に有効に活用させて戴きます。

なお、特別の理由で、この措置を希望されない著者の方は、甚だご面倒ですが、昭和 60 年 6 月末日までに、本会にその旨書面でお申し出くださるようお願い申し上げます。

第 30 回 全国大会（昭和 60 年前期）概要および論文集予約

開催期日	昭和 60 年 3 月 13 日(水)～15 日(金)
会場	工学院大学（東京都新宿）
一般参加費	大会当日会場にて受付けます（登壇論文発表者を除く）。賛助会員は 1 口 1 名として正会員に準じます。電子通信学会会員は本会会員扱いとします。
	会 員 1,000 円 非会員 2,000 円
講演参加費	登壇発表者は原稿提出と同時に納入してください（原稿用紙は 12 月中旬に送付します。原稿締切は 60 年 1 月 21 日です）。 1 件ごとに 7,000 円。ただし、登壇発表者には別刷 50 部および論文集 1 部を贈呈します。
論文集予約	予約を原則とします。本号綴込みの申込書により、60 年 2 月 22 日までに事務局へお申込みください。 予約価 5,000 円（定価 6,000 円） 送料 700 円 （予約者以外にお頒けできるのは、大会当日残部のある場合に限りです）。
プログラム	特別講演（1 件）、招待講演（1 件）、パネル討論（2 件）および論文発表（約 1,000 件）が予定されています。詳細は 2 月号に掲載します。とくに登壇発表者はご注意ください。
懇親会	今回も開催を予定していますので、多数ご参集ください。

「ニューメディア/マルチメディアと分散処理——現状と将来の課題——」

シンポジウム開催について

ニューメディア/マルチメディア技術の進展は著しく、将来の分散処理システム構築において重要な役割を果たすものと考えられる。本シンポジウムでは、より知的な高度分散処理システムの構築を目指してニューメディアとマルチメディア技術の現状を総括すると共に、将来を展望し技術課題を探る。

日 時 昭和60年2月22日(金) 9:00~17:00

場 所 機械振興会館ホール(地下2階)

参 加 費 正会員6,000円, 学生会員3,000円, 非会員9,000円
(論文集のみ2,500円, 送料300円)

申込締切 昭和60年2月4日(月)(定員150名になり次第, 締切ります)

申 込 先 下記参加申込書により情報処理学会シンポジウム係に申込みください。

~~~~~プログラム~~~~~

基調講演 (9:05~9:15)

司会 河岡 司(横通研)

- 総論ニューメディア/マルチメディアと分散処理

野口 正一(東北大)

セッション1 ニューメディア (9:15~10:15)

座長 白鳥 則郎(東北大)

- ニューメディアと通信方式

宮原 秀夫(阪大)

- ブロードバンド LAN における双方向 CATV

寺田 松昭(日立)

——休憩 (10:15~10:25)——

セッション2 マルチメディア(1) (10:25~11:25)

座長 河岡 司(横通研)

- マルチメディアとマンマシンインタフェース

白鳥 則郎(東北大)

- マルチメディアのためのプロトコルの標準化

佐伯 武雄(日本IBM)

——昼食 (11:25~12:30)——

セッション3 マルチメディア(2) (12:30~14:00)

座長 村上 国男(ICOT)

- 企業通信とニューメディア

石坂 充弘(三菱)

- 高度通信処理とマルチメディア

河岡 司(横通研)

- テレマティックサービスとマルチメディア

浦野 義頼(KDD)

——休憩 (14:00~14:10)——

セッション4 マルチメディアとオフィスシステム (14:10~15:40)

座長 松下 温(沖電気)

- オフィス情報システム(1)

大空 瞭(富士通)

- オフィス情報システム(2)

服部 光宏(日電)

- オフィス情報システム(3)

和才 博修(東芝)

——休憩 (15:40~15:50)——

セッション5 ニューメディア/マルチメディア展望と課題 (15:50~17:00)

座長 野口 正一(東北大)

- 電気通信の自由化とニューメディア

松下 温(沖電気)

- 知識情報処理システムとマルチメディア

村上 国男(ICOT)

昭和 年 月 日

「ニューメディア／マルチメディアと分散処理」シンポジウム

参 加 申 込 書

(申込書は1枚1人とし、用紙はコピーで可)

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 (住所、会社名、所属) 〒 _____
_____ Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参 加 費 (該当するものを○印でかこむ)。

正会員、賛助会員 6,000 円 非会員 9,000 円 学生会員 3,000 円

○論 文 集 の み (2,500 円、送料 300 円) 冊

○送 金 方 法

_____ 円を _____ 月 _____ 日送金します (金額、送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)。

a. 現金書留

b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座) 名義人 東京都港区芝公園 3-5-8 社団法人 情報処理学会

第一勧銀虎ノ門支店 1013945

富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門支店 0000608

三井銀行本店 4298739

住友銀行虎ノ門支店 10899

三和銀行虎ノ門東京公務部 21409

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書

通、見積書

通、納品書

通

請求先 _____

○送付先・問合せ先

情報処理学会「ニューメディア／マルチメディアと分散処理シンポジウム」係

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

Tel. 03 (431) 2808

論文賞候補の論文推薦のお願い

昭和 59 年度論文賞の候補論文を下記によりご推薦くださいますようお願いいたします。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

昭和 58 年 10 月から 59 年 9 月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 24, No. 6～Vol. 25, No. 5)および「Journal of Information Processing」(Vol. 6, No. 4～Vol. 7, No. 3)に発表された論文の中から 1 編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締 切 日

昭和 60 年 1 月 31 日(木)

表彰規程(抜粋)

第 2 章 論 文 賞

1. 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
2. 表彰する論文は、原則として毎年 4 編とするが、編数は事情により変更することができる。
3. 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の 10 月から前年の 9 月までの間に発表されたものであることを要する。
4. 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
5. 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
6. 論文賞は、賞状および賞金とする。
7. 賞金は、論文一編につき 30,000 円とする。

推 薦 方 法

官製はがきに、推薦する論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名をもれなく記入のうえ、本会論文賞係宛お送り下さい。

創立 25 周年記念論文公募について

情報処理学会では創立 25 周年を記念して、昭和 60 年 11 月発行の会誌「情報処理」を、研究会の活動を反映させた記念論文特集号とすることに決定いたしました。

申すまでもなく、研究会は会員相互の自主的な研鑽と研究情報交換の場であり、学会活動の大きな柱であります。従来、研究会活動の活性化と自主性を高める方策がとられて参りましたが、今回その成果を記念論文特集号に反映させることは、記念事業としてふさわしく、学会の将来への発展の礎石となるものであります。

したがって、会員各位におかれても、奮って応募されますようご案内申し上げます。

1. 記念論文特集の構成

記念論文は、16 の研究会のそれぞれの活動分野を特徴づける独創性の高い学術論文であるものとします。なお、各研究会は関連する研究分野の動向と、記念論文の位置付けを明らかにした論説を付けるものとします。

2. 候補論文選定の方針

各研究会は、研究分野だけでなく性格も同一ではありません。したがって、候補論文選考の方針、基準等は各研究会に一任されます。各研究会の方針、規定等は学会誌ならびに研究会報告に公示されます。各研究会は昭和 60 年 5 月末までに、各 1 編の候補論文を記念論文編集委員会に推薦、提出するものとします。

3. 記念論文選定の手順

調査研究運営委員長、同じく一号委員ならびに会誌、論文誌、欧文誌編集担当の理事で構成される 25 周年記念論文編集委員会は、各研究会より推薦された候補論文を審査し、各研究会に第一次査読を委託し、内容について十分な審議と必要な修正を求めます。また、上記の論説の執筆を依頼します。

第一次査読を通過した論文は、論文誌査読委員の査読をうけ、十分な審査を行います。この間、疑問があれば、第一次審査にもどされます。論文基準に達していなければ、不採択もあり得ます。これらについての調整は、記念論文編集委員会が当り、第一次、第二次査読を通過したものが、記念論文特集号に組み入れられます。

4. 論文執筆の基本事項

論文執筆の細目は各研究会にゆだねられますが、下記の基本事項はお守り下さい。

- (1) 論文は刷り上り約 8 ページ、研究会が付ける論説は 2 ページをめどとする。論文の表現は、できるだけ明確かつ全貌のわかり易さに心掛けること。
- (2) 文章は邦文とし、執筆者は学会員であること。公募論文の提出先は、該当研究会宛とする。
- (3) 「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内（学会誌 25 巻 1 号巻末参照）に準拠した書き方であること。

5. 特記事項、その他

- (1) 25 周年記念論文に選定されたことを荣誉とし、論文賞の対象といたしません。
- (2) 選定論文 1 編につき論文別刷 100 部を贈呈します。
- (3) 各研究会の募集方針、規定等は下記のとおりです。
- (4) 不明の事項については学会事務局研究会係までお問合せください。

◆ 自然言語処理研究会

当研究会とシンポジウム等に発表されたものの中から選考する。

◆ データベース・システム研究会

下記の要領で投稿された論文と、58/59年度の研究会およびシンポジウムでの発表で同意を得たものの中から1編を推挙する。

応募論文は、邦文で刷り上り8ページ(学会所定原稿用紙48枚)を上限とし「記念論文」であることを明記して、12月末までにコピー3部を送付のこと。

原稿送付先：〒104 中央区築地 5-6-4

三井造船(株)電算センター 三浦孝夫 Tel. 03(544)3090

◆ 知識工学と人工知能研究会

昭和60年3月までに当研究会で発表された論文の中より選定する。ただし、論文誌等に未発表のものに限る。

◆ 記号処理研究会

選考対象 当研究会にて過去に発表されて、査読付きの論文として公表されていない論文。

選考方法 (1)研究会活動に積極的な登録会員(約50名)から、最大3編の候補論文を無記名で推薦してもらい、候補を5編程度にしぼる。

(2)連絡委員の中より数名で構成された作業グループにより、推薦すべき論文1編を決定する。

◆ ソフトウェア工学研究会

第38回(59年9月)、第39回(59年11月)、第40回(60年2月)の研究会で発表された論文の中から研究連絡会において一論文を選び、記念論文として寄稿を依頼する。ただし、適当な論文がないときは、研究連絡会で執筆者を選び依頼する。

◆ マイクロコンピュータ研究会

選考対象 (1) 昭和60年3月までに研究会で発表された論文。

(2) 昭和69年3月までに提出された研究会資料程度の投稿論文。

(3) 選定委員会が依頼した論文。

選考方法 連絡委員を中心とした選定委員会を設け、選考対象から一論文を選定する。

論文提出先：〒101 千代田区神田錦町 2-2

電機大学・工・電気通信 安田寿明 Tel. 03 (257) 0370

◆ 計算機アーキテクチャ研究会

選考対象 (1) 昭和60年3月までに研究会で発表された論文。

(2) 昭和59年11月の計算機アーキテクチャシンポジウム発表論文。

選考方法 連絡委員を中心とした委員会により60年3月に一論文を選定する。ただし、適当な論文がないときは、選定委員会から依頼することもある。

◆ オペレーティング・システム研究会

下記の要領で投稿された論文と、当研究会で昭和59年度までに発表され査読付きの論文として公表されていない論文のなかから一論文を選定する。

論文応募者は、11月末までにアブストラクトを、2月末(必着)までに本論文を提出する。アブストラクトには、表題、著者名、所属、連絡先、アブストラクト(A4判で3ページ以内)、本論文の構成、関連資料等を添えること。本論文は、「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内にしたがう。

アブストラクト・本論文提出先：〒305 茨城県新治郡桜村

筑波大学 電子・情報工学系 益田隆司 Tel. 0298 (53) 5345

◆ コンピュータビジョン研究会

次の(1)、(2)を選考対象とし、その中から1編を選定する。

- (1) 60年1月の研究会までの過去数年間に CV 研究会で発表されたもの。
- (2) 60年1月末までに選考対象にしてほしい旨、下記まで届け出たもの。ただし、この場合は、研究会資料と同程度の長さに原稿をまとめ、60年1月末までに提出すること。

原稿送付先：〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学・工・情報工学科 杉原厚吉 Tel. 052 (781) 5111 (内 3309)

◆ 設計自動化研究会

選考対象 昭和59年度(59年4月から60年3月まで)に当研究会で発表された論文。

選考方法 選定委員会を組織し、昭和60年3月に一論文を選定する。

◆ 分散処理システム研究会

下記の要領で優秀な論文を募集する。

1. 論文のテーマ

広域分散・ローカルネットワーク・機能分散・負荷分散などの分散処理システムの設計と運用技術、計算機網技術とその応用に関する理論と実際、マルチメディア通信技術およびこれらに関連するトピックスとする。

なお、すでに当研究会およびシンポジウムで発表した内容も対象となる。

2. 応募要領

応募される場合にはアブストラクトと本論文の両方を、次の要領にしたがって作成し提出すること。

(1) アブストラクト

1 ページ目：表題、著者名、所属、代表連絡先(住所、電話番号)

2 ページ目：表題、論文構成(章、節)、キーワード(5～10個)

3 ページ目以降：アブストラクト文

- (a) 文章：A4判で3枚以内(1,000～2,000字以内)。論文のポイントを、①背景、②目的、③論文の特徴、④その他の形式で記述すること。

(b) 図表：A4判で3枚以内

(2) アブストラクトの締切 昭和59年11月末

(3) 本論文

「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内(学会誌25巻1号巻末参照)にしたがう。

(4) 本論文の締切 昭和60年1月末(採否の決定は昭和60年7月末までに連絡する)。

3. アブストラクト・本論文提出先：〒980 仙台市片平 2-1-1

東北大学電気通信研究所 野口正一 Tel. 0222 (27) 6200 (内 2355)

◆ 日本文入力方式研究会

当研究分野のオリジナル論文を下記により募集する。

(1) 要旨提出

①成果の独創性を中心とした1,300字程度(A4判1ページのタイプ文書)の要旨 ②章立て構成(別紙)③関連資料(例えば既発表の当研究会資料等)を添えて本年11月末必着で提出のこと。

(2) 論文執筆依頼

予備選考結果にもとづき昭和60年1月末頃までに、本選考の候補論文執筆依頼をする。締切りは3月末。

(3) 最終決定

4月末までに採用論文の決定を通知する。

◆ グラフィクスと CAD 研究会

58年度、59年度の当研究会とシンポジウムに発表されたものの中から選考する。

◆ 数値解析研究会

公募論文および当研究連絡会から依頼する論文の中より1編を選定する。いずれも下記あて送付の

こと.

論文締切 昭和 59 年 11 月 30 日 (金) (必着)

提出先 〒606 京都市左京区北白川追分町

京都大学 数理解析研 一松 信 Tel. 075 (751) 2111 (内 7226)

◆ ソフトウェア基礎論研究会

昭和 60 年 2 月末までに当研究会あるいは関連する機関において公表されたものの中から、査読付の論文誌等に未発表のテーマを当研究連絡会において選定する。

なお、当研究会の関連分野は学会誌 25 巻 4 号みどりのページを参照のこと。

◆ 情報システム研究会

発足後間もないため、論文の公募はしない。主査を中心に幹事が協力して論文を執筆する。

本会協賛等の行事案内

	(開催期日・場所)	(主催・問合せ先)
第 3 回 JAGDA コンピュータシンポジウム 1984 TOKYO-OSAKA	昭和 59 年 12 月 11 日(火) 東京: ABC 会館ホール 大阪: よみうり文化ホール	(社)日本グラフィックデザイナー協会 Tel. 03(404)2557
84/5 高分子可能性講座「光情報システムを担う機能材料」	昭和 60 年 1 月 28 日(月) ~29 日(火) 日本化学会講堂	(社)高分子学会 Tel. 03(543)7857
第 35 回自動制御講習会「16 ビットマイコンの高度利用-II」	2 月 7 日(木)~8 日(金) 東京: ダイヤモンドホール 2 月 14 日(木)~15 日(金) 大阪: 大阪科学技術センタ	日本自動制御協会 Tel. 075(751)6413
第 5 回シミュレーション・テクノロジ・コンファレンス	昭和 60 年 6 月 18 日(火) ~19 日(水) 学士会館本館	日本シミュレーション学会 Tel. 03(352)2231
第 9 回構造工学における数値解析法シンポジウム	昭和 60 年 7 月上旬 東京 (詳細未定)	日本鋼構造協会 Tel. 03(212)0875

支 部 だ よ り

中 部 支 部 専 門 講 習 会

——データベースに関する専門講習会——

日 時 昭和 60 年 2 月 7 日 (木), 8 日 (金)
場 所 名古屋通信ビル 2 階ホール (名古屋市中区千代田 2-15-18)
参 加 費 会員 8,000 円 (学生 5,000 円), 非会員 11,000 円
テキストのみ 5,000 円 (送料込)
定 員 120 名
申込方法 はがきに「データベースに関する専門講習会申込み」と標記し, ① 住所, 氏名, ② 所属学会, 会員種別 (または会員外), ③ 勤務先, 連絡先 (Tel.), ④ 送金額を記入して下記あてお申し込み下さい. また, 同時に参加費を銀行振込か現金書留にて, ご送金下さい.
銀行振込口座 (普通預金) 第一勧銀 大須支店 1003716
口座名義 電子通信学会東海支部 支部長 福村 晃夫
申 込 先 〒460 名古屋市中区大須 4-9-60 東海電気通信局施設部調査課内
電子通信学会東海支部 Tel. 052 (291) 2451

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第 1 日 2 月 7 日 (木)

総 論 (9:30~10:00) 福村 晃夫 (名 大)
データベースの現状と展望 (10:00~12:00) 森 道直 (電 電)
中部情報センターの構想 (13:00~14:30)
本告 光男 (中電コンピューターサービス)
政治・経済・社会・文化—ニュースの記事情報システム (14:40~16:10)
広木 守雄 (中日新聞)

第 2 日 2 月 8 日 (金)

データベース理論 (9:00~10:30) 穂鷹 良介 (筑波大)
知識ベース・システム (10:40~12:10) 田村 準一 (阪 大)
JOIS システムについて (13:00~14:30)
福島 勲 (日本科学技術情報センター)
NEEDS-IR システムについて (14:40~16:10) 小松 正賢 (日経新聞)